

情報技術と図書館

2015年度JLA中堅職員ステップアップ研修(2)
2015年6月16日(火)13:30-16:00
栗山正光
(首都大学東京 学術情報基盤センター)

情報技術の歴史と図書館

- そもそも図書館はその時代における最新の情報技術を取り入れてきた
 - 粘土板、パピルス、木簡・竹簡、巻物、冊子、印刷、マイクロフィルム、レコード、ビデオカセット等々
 - カード目録(!)
 - もちろん現在ではコンピュータとインターネット
- ゆえに図書館員が情報技術に弱い・無関心・抵抗を示すなど、あり得ない(?)

図書館におけるコンピュータの活用

- コンピュータの活用には二つの側面
 - 業務効率化、省力化
 - 新しいサービスの提供
- コンピュータは人間より速い、正確、従順
- しかし、コンピュータは人間が指示した通りのことしかやらない(究極のKY)
- 人間はしばしば間違った指示を出す
- 多くの人はそもそも指示の仕方がわからない
→人に頼る→人と人の中で誤解が生じる

この講義のトピックス

1. 情報技術を活用した業務効率化
2. 情報技術を活用した新しいサービス
3. 情報セキュリティ
4. 情報技術に強い人材の育成

業務効率化を考える

- 依然として手作業に頼っている業務は？
その原因は？
- コンピュータで処理することでかえって仕事が煩雑になっている業務は？
どうすれば改善できるか？
- 業務自体の見直しも必要
 - 状況は絶えず変化する
 - 常識(当たり前)を疑う
- 予算、スキルがないからできない(?)
- 言い訳になっていないか？

情報技術を活用した新しいサービス

- インターネット接続環境(無線LANを含む)の提供
- 商用データベース、電子書籍、電子ジャーナルの提供
- 所蔵資料の電子化と公開
- OPACの新しい機能
- SNSによる情報発信
- 各図書館でどのようなサービスを実施しているか？
- その効果は？ また課題は？

情報セキュリティ

- 特にネットワーク・セキュリティ
 - 不正アクセス、情報漏洩の防止
 - システムの安定運用
- 方策として、ソフトウェアの弱点の修正（アップデート）、アクセス制限、パスワード管理、ウィルス対策ソフトの導入など
- 安全性と使いやすさのトレードオフ
- 図書館システムのセキュリティは業者まかせになっていることが多い

岡崎市立中央図書館事件

- 誤認逮捕事件 cf. “Librahack”フォーラムの公式記録
 - 2010年、岡崎市立中央図書館の蔵書検索システムにアクセス障害が発生
 - 自作プログラムで図書館のウェブサイトアクセスしていた利用者を偽計業務妨害容疑で逮捕
 - しかし、利用者のプログラムは不当なものではなく、障害が起こった原因は図書館システム（三菱電機インフォメーションシステムズ（MDIS）製）の不具合であることが判明
- その後、MDISは、岡崎市立中央図書館の利用者163人の個人情報、同じシステムを使用する37館に流出していたことも発表、謝罪

情報技術に強い人材の育成

- どんな部署でもある程度の情報技術の習得は必要
- 組織的な研修プログラムがあるのが理想
 - 他部局と合同でもいい
- 向き不向きがあるのは否定できない
 - 文系でも適性のある人はいる
 - できる人にはより高レベルの研修を
- 人事異動の影響をどう軽減するか

まとめ

- 情報技術と図書館の関わりについて、四つの側面から検討した
 - 情報技術を活用した業務効率化がうまく行っていない点とその原因
 - 情報技術を活用した新しいサービスの事例とその効果
 - 情報セキュリティのあり方（図書館システムの不具合が誤認逮捕を招いた事例を中心に）
 - 情報技術に強い人材の育成